



KIMOTO REPORT

KIMOTOファンの皆様へお届けする最新情報

証券コード：7908

2024.5

トップメッセージ

KIMOTOファンの皆様

年始に発生しました令和6年能登半島地震の影響により、未だ多くの方への影響が残っている現状や、世界では終わらぬ争いがある状況に深く心を痛めております。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げますとともに、世界の平和を切に願っております。

2024年3月期決算は電子デバイス・車載関連の緩やかな回復もあり微力ではありますが利益が出た結果となりました。

フィルム事業は電子デバイスの消費量が減少傾向にあり苦戦しましたが、モジュール関係の部材が堅調に伸びたことと近年注力しております自動車向け内装部材の採用案件の増加、EV(電気自動車)バッテリー向け耐熱・絶縁用途の粘着製品につきましても同様に増加し利益に貢献しました。引き続きこのような高付加価値製品の販売に注力してまいります。

デジタルツイン事業については、5年にわたり進めてきた国の施策である国土強靱化事業のデータ整備が完了したことにより当社における業務量も減少し売上にも影響しました。また土木業に向けたBIM/CIMで活用される3Dデータは堅調に伸びてきております。その中で新たにに取り組んでいる製造業DXは徐々に成果が出てきており、今後に期待しております。

技術本部では、アウトプット(開発品の製品化数)4倍に向けた改革施策が順調に進んでおります。「開発案件の分業化」の環境を整えるため、三重工場の協力のもと、技術開発センターから三重工場への設備移設の第一段階が1月中旬に終了しました。更にワークフローをシンプルにし効率化を進め、多くの新製品にて皆様に貢献してまいります。

代表取締役社長

小林 正一



管理本部は昨年7月に稼働を開始した新基幹システムにつきまして、ようやく安定稼働となり、新システムでの初めての決算においても決算早期化を実現しました。

また、経済産業省と東京証券取引所が共同で実施しております「Nextなでしこ 共働き・共育で支援企業」に選定されましたことをご報告させていただきます。これは当社が時代に先駆け2009年から取り組みを続けてまいりました働き方改革、フリーシート・フリーアドレス、フルフレックスなど、人種や国籍、性別、学歴、年齢に囚われず個性を発揮し活躍できるよう改革を進めてきた結果として選定されました。今後も一人一人が柔軟な働き方の中で輝けるよう改革を進めてまいります。

これからもKIMOTOグループ一丸となりワールドワイドで世の中に貢献し、業績回復に努めてまいります。KIMOTOファンの皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算ハイライト

(単位:百万円)

連結業績	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
	通 期	通 期	通 期	通 期 (予想)
売上高	12,235	9,623	9,910	10,600
営業利益	695	△626	214	500
経常利益	815	△512	408	540
親会社株主に帰属する当期純利益	684	△567	335	370
総資産	23,819	21,560	22,599	—
純資産	18,661	17,693	18,156	—
1株あたり配当 (円)	年間 6	年間 6	年間 6	年間 (予想) 6

POINT

- 新しい業界向けの一つとして自動車で使用される付加価値の高い製品が堅調に推移。
- 東アジア地域の大手スマートフォンメーカーが回復傾向となり、新規モデル向けへの採用などにより遮光フィルム、粘着フィルムが堅調となり、売上に貢献。
- 高付加価値製品の販売強化、低収益品の統合及び生産業務効率化による製造原価低減に努め、増益。

株主の皆様の声をお聞かせください

皆様のお声を当社のさまざまな取り組みに反映できるよう、Webによるアンケートにご協力をお願い申し上げます。掲載のURLまたはQRコードからアクセスいただき、ご回答いただけますようお願い申し上げます。

実施期間：2024年7月31日(水)まで

https://www.kimoto.co.jp/company/ir_survey_2024



トピックス 100年継続企業を目指し代表取締役3名体制に移行しました

激変する世界情勢にすばやく適応し、より迅速な経営判断が行えるよう、4月1日付で代表取締役3名体制に移行しました。新任の代表取締役3名に抱負を聞きました。

新任代表取締役の略歴

■ 小林 正一 (こばやし・しょういち)

営業本部、Digital Twin事業部を経て、現在、代表取締役社長 営業本部長を務める

■ 引場 孝 (ひきば・たかし)

営業本部、技術本部を経て、現在、代表取締役常務 技術本部長を務める

■ 山田 資子 (やまだ・もとこ)

営業本部、管理本部を経て、現在、代表取締役常務 Digital Twin事業部長を務める



左・引場 孝、中央・小林 正一、右・山田 資子

Q. 新体制移行のねらいは？



小林 目下の最大の課題は業績回復です。当期は主要取引先の事業が動き始め、利益面でようやくマイナスから抜け出すことができました。ただし、新体制の使命は、コロナ禍以前に戻すことではなく、社会の変化にふさわしい未来のきもと像を実現することにあります。

いま、国内は人口が減少し、市場が縮小傾向にあります。ワールドワイド展開を意識し、組織全体を見直すとともに、バランスの良い事業を心掛けます。私自身は社長と営業本部長を兼任していますが、まずは営業力の強化に全力で当たります。時代は急速かつ大きく変化しています。この流れに乗っていくにはすばやい決断力が必要です。決断力のスピードでは木本会長にかなわないだけに、3人が協力し、補い合うことが求められます。戦国武将の家訓に「矢は3本束ねれば折りがたい」という話があります。3人が力を合わせることで、苦難に立ち向かえるのではと考えています。

Q. 技術本部ではどのような取り組みを？

引場 技術本部では『アウトプット（開発品の製品化数）4倍』を目標に開発案件の「分業」を急ぎます。ワークフローを根底から見直すとともに、開発部門だけでなく製造部門とも連携を強化して、設計と実験の工数を劇的に増やす試みです。その第一ステップ



として技術開発センター（埼玉）から三重工場への設備移管を進めています。これらの取り組みにより、製品化精度のアップ、製品化納期の短縮、安定生産を可能にし、営業をバックアップできるものと考えています。

Q. フィルム事業などでは新しい動きも加速していますね。

引場 近年、自動車向け内装部材の採用案件が増えています。EV（電気自動車）バッテリー向け耐熱・絶縁用途の粘着製品も有望です。利益率の高い高付加価値製品の開発に力を入れます。

Q. 管理本部の抱負を聞かせてください。

山田 ワールドワイドに通用する管理本部を目指します。新しい基幹システム「KIWI」のビッグデータを活用して、グループのワークフローを見える化し、AIなども活用して大胆に自動化を進めます。グループの垣根を越え、新体制でワールドワイドに活動が進んでいます。この活動をより前に進めるためには柔軟に対応ができる労務・人事等の体制が必要になってくると考えています。

Q. デジタルツイン事業は小林社長から山田常務に引き継がれますね。

山田 デジタルツイン事業で製造業DXを本格的に立ち上げることが私のミッションです。これまで集積してきた知見を活かし、製造業のお客様に製造業DXを積極的に提案していきます。土木・建設分野においては、3Dデータ作成の需要が増えてきたこと、技術の要である中国の瀋陽木本実業有限公司の技術力に信頼をいただけていることにより受注が増え、堅調に伸びています。また、欧州のKIMOTO AGと協力し、昨年11月にロンドンで開催された展示会「LONDON BUILD 2023」に初出展し、当社の技術やアプリケーションをPRしました。引き続きワールドワイドに当社をPRしながら社会のニーズに貢献してまいります。



会社情報・株式情報 (2024年3月31日現在)

● 会社概要

名 称	株式会社 きもと
設 立	1961年2月9日
従業員	460名(連結)／383名(単体)

● 株式の状況

発行可能株式総数	90,000,000株
発行済株式の総数	54,772,564株
株 主 総 数	9,854名



www.kimoto.co.jp

KIMOTO

〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷四丁目6番35号
TEL: 050-3154-9000 FAX: 048-853-9041



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



ミックス
紙 | 責任ある森林
管理を支えています
FSC® C022915